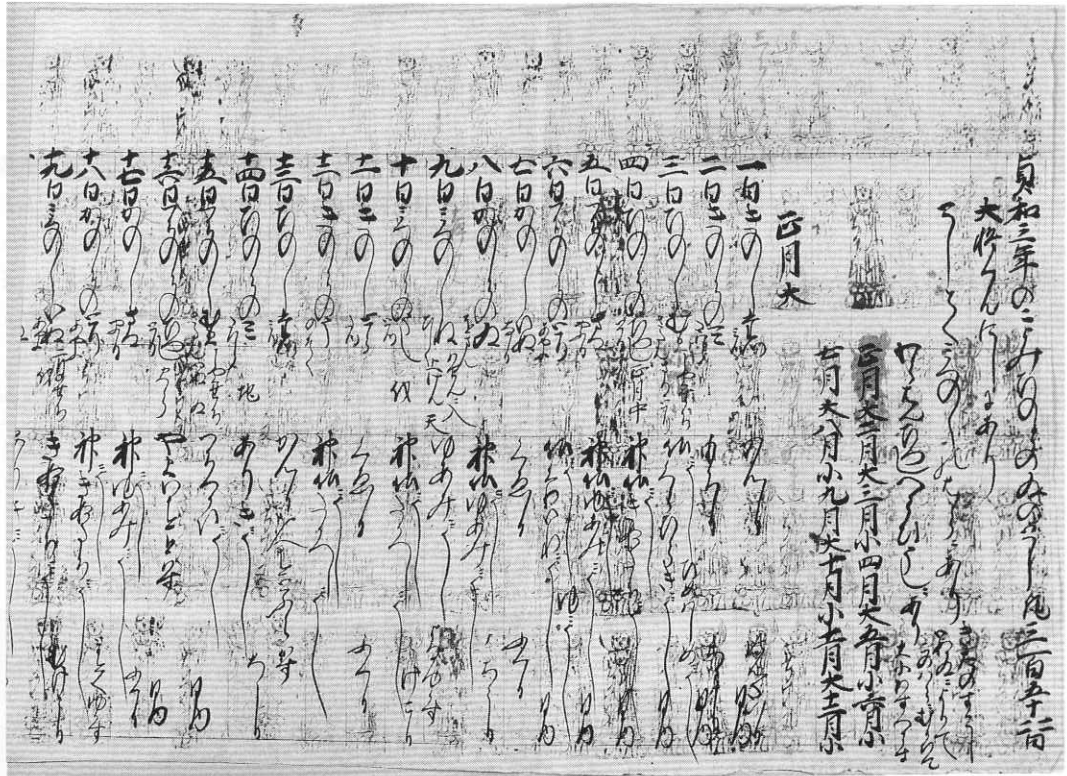


# 郷土館だより

Vol. 16. No.1

1993. 11. 15



## 現存最古の三嶋暦の複製を展示

三嶋暦師の河合家は、古くから三島明神（現在の三嶋大社）の社人に列せられ、三嶋暦の編暦及び頒布を行ってきた。同家の言い伝えによれば、その起源は奈良時代（宝亀年間）にまで遡るといえるが、その証拠となる暦は現存していない。現在判明している最古の暦は、足利文庫（栃木県）所蔵の永享九年（1437年）のものだが、年初から9月16日までの八片の断簡にすぎなかった。写真の暦は、栃木県真岡市の莊嚴寺所蔵の居貫不動尊の胴体部分から多くの古文書とともに発見された

康永4年（1345年）から貞和3年（1347年）までの3年続きの完全な仮名暦の中の1点、貞和3年肉筆仮名暦を複製したものである。

いずれにも、裏側に印仏がぎっしりと捺されている。発見されたときは、各紙片がバラバラになってしまっていたが、原形態は、卷子暦だったと思われる。

莊嚴寺にゆかりの深い僧行勇と鎌倉幕府との関係や、中世以前の日本における三嶋暦頒布圏から考えても、三嶋暦師と本暦の関連は深いものであろうと推定できる。

# 「ふるさとの画家とその作品展」を終わって

平成5年7月25日から8月31日までの会期で開いた企画展「ふるさとの画家とその作品展」は、好評のうちに無事終了しました。

7人のふるさとの画家とかれらの代表作品や遺品など約50点が十分に来館者を堪能させてくれたものと思います。

本報告では、企画展会期中の入館者数の報告を行うと同時に、展示できなかつた画家のエピソードなどを補足しておきたいと思ひます。

## 瀬川眞画伯(1907—1975)の卒業制作

瀬川眞先生は美術学校卒業後地元三島に帰って小・中学校の教師を歴任していました。したがって市内には先生の教え子が多く、今でも先生の風貌を思いだし、当時の愛称「ライオン先生」を懐かしむ人達がいます。

しかし、そうした親しみが多かった反面、

先生の作品は数多くの色紙に描かれた「かっぱ」や大津絵写しの「鬼」、「四季の草花」以外には大作が少なく、その収集には苦勞したものでした。

そんな中で見付け出したのが今回展示した「人物風俗図」(川原ヶ谷・願成寺所蔵)でした。

本作品は先生が多摩美術学校(現在の多摩美術大学)の卒業制作とのこと。若さあふれるローケツ染めの二曲屏風の力作でした。

そして、この作品の由来などを調べているうちに偶然見付かったのが、先生自身の作品制作の思い出の文章でした。それは、戦前、大岡博氏が主催編集していた地域芸文誌『菩提樹』の中に「無題」と題され掲載されていたものです。

それは次のような思い出話です。

## 無題

瀬川 眞

先輩大岡先生が私の卒業制作の一部分を表紙として選んで呉れたことは、郷土へ帰って来ての私にとって、うれしい事の一つである。

「何か製作当時の感想を書いてみないか」との言葉に対し、かゝるがと書く事を約し、あとで悔ひた。文はもとより不得意である。現在となって当時を想ふ時心の底に「想ふまい」と何時

もなにかが叫ぶからである。製作の完成したのは二、二六事件の突発した雪の日であった。約一ヶ月間を費ひやしての製作は事件のなり行きを刻々と報ずるラチオをも聞く気になれず、疲れは私をねむりに追ひやつた夕刻頃モデルMと言ふダンサーがホールが事件の為め休みだから遊びに来たと云つて訪ねて来た。その内、T君も訪ねて来た。「とうとう完成したネ」とTは自分の事の様によるこんで呉れた。私はTやMと種々な話しながら、疲れのとれた目で作

品を検べて見た。製作にかゝる前のプラン通りに完成したか。色は古い仏画に見る様な、あの静かな美しサ、温かサ、主題とした人物は私が求めてゐる人間性の中の仏性とも云ふべきモノが表現し得たか、等について。月日は早や二年流れる。当時は、い、と思つた色合も、人物の配置も、昨日よりも今日、今日よりも又明日と、だん／＼作品が気に入らなくなつて来た。こんな事も当時を想いたくない一つの理由でもある。



▲ 人物風俗図

## 入館者報告 (会期 平成5年7月25日～8月31日)

区分	月間観覧日数		合計(33日間)
	7月(6日間)	8月(27日間)	
学生(小中高)	435人	2,850人	3,285人
一般(個人)	690人	4,755人	5,445人
団体(30人以上)	(2) 180人	(4) 165人	(6) 345人
合計	1,305人	7,770人	9,075人

# 企画展「竹と生活」

## ～竹のある暮らし～

開催期間

平成5年11月14日(日)～6年2月13日(日)

会場

三島市郷土館1階展示室

(一番町19-3 楽寿園内)

日本の山野には広く竹(笹)が自生しています。その竹は木と共に人々の生活の中に入り込み、様々な形で利用されてきました。竹は日本人の生活にとってなくてはならないもの、すなわち極めて親しい生活素材であるといえましょう。

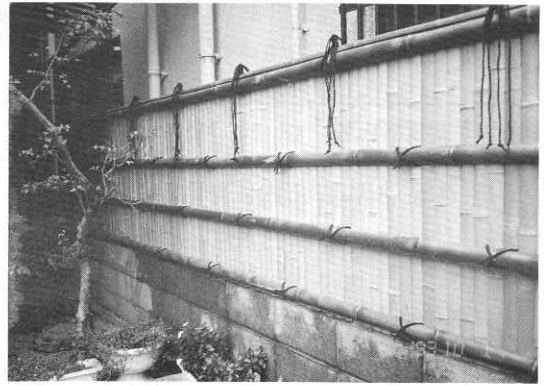
私達の生活周辺にも、実にたくさんの竹の道具類が発見でき、その便利性、実用性、加工された形状の美しさ等々にあらためて驚かされます。

ところが、近年では、身近な素材であり、伝統的だった竹の利用が、生活環境の変化や竹に変わる化学製品の登場で、次第に減少しつつある傾向がみられます。

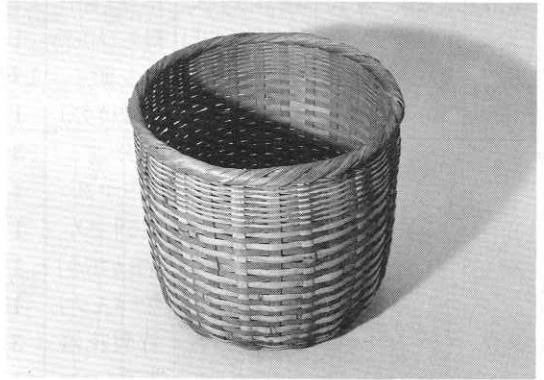
本企画では、郷土を中心とした竹の利用法を概観し、竹と人々の暮らしの係わりを眺めてみます。

### 展示概要

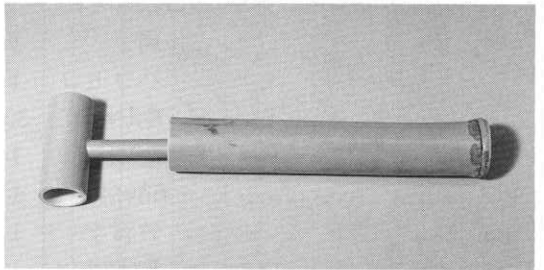
- (1)世界の竹・日本の竹
  - ①分布・種類・竹の性質
- (2)竹と生活(くらしと竹)
  - ①住まいの中の竹の利用
  - ②生業と竹
  - ③台所と竹
  - ④年中行事と竹
  - ⑤遊びと竹
  - ⑥竹の工芸品
- (3)竹と昔話
- (4)竹屋の生活
- (5)竹に関する知識



住いと竹(竹垣)



生業と竹(茶つみかご)



竹と遊び(水てっぽう)



台所と竹(筥)

## 収集資料報告 I

(平成5年5月~10月)

採集月日	提供者氏名	住 所	資 料 名	数	採集月日	提供者氏名	住 所	資 料 名	数
5.6	遠藤 忠彦氏	市内佐野191	ポンプ	1	9.16	中根 いと氏	市内青木125-6	竹行李	1
	"	"	チョップパー	2	9.18	佐藤 敬子氏	東京都豊島区	書籍	43冊
	"	"	五徳	1	"	"	南池袋3-9-5	書籍(肉筆)	7冊
	"	"	パン焼き	1	"	"	"	英吉利国条約并税則	1
	"	"	竹ザル	4	"	"	"	富士山麓名所之図	1
	"	"	竹ビツ	1	"	"	"	三島神社祭典当番記念	1
	"	"	カマ敷	1	"	"	"	写真(大正3年)	
5.7	大久保 豊氏	修善寺町大平1083-3	秤(棒、分銅付)	1	"	"	"	棒秤(分銅付)	5
	"	(大久保竹工店)	米を洗ってあげるザル	1	"	"	"	チェックライター	1
5.7	足立 敏夫氏	天城湯ヶ島町	シシ頭	1対	10.1	鈴木 安氏	市内寿町	祝いびつ	1
	"	湯ヶ島240-1	ハエ取(ガラス)	1	"	"	"	ザル	1
	"	"	目カゴ	3	10.1	永井 チヨ氏	市内加屋町4-39	フカシ	2
	"	"	1斗マス	1	"	"	"	釜(アルミ)蓋	1対
	"	"	2斗5升マス	1	"	"	"	飯ビツ	2
	"	"	背負カゴ(小)	1	"	"	"	火消ツボ	1
	"	"	ウナギモジリ	1	"	"	"	竹製シャモジ差し	1
	"	"	竹製花器	3	"	"	"	桐下駄 他	4
7.9	土屋 健二氏	市内長伏5-9	炭アイロン	1	"	"	"	S14~18教科書	9
	"	"	髪かざり(かんざし、1式)	1式	10.1	栗原齒科医院	市内中央町	島桐角火鉢	2
	"	"	こうがい、櫛		"	"	"	桐糸炬火鉢	2
	"	"	扇子	1	10.1	光林宗一郎氏	市内南本町11-7	トランク	2
	"	"	ハコセコ	1	"	"	"	蓄音器	1
7.29	遠藤 泰之氏	市内徳倉967-1	農具(*別紙)	39	"	"	"	レコード	71枚
	"	"	コタツヤグラ	1	"	"	"	絵はがき	多数
9.3	奈良橋春雄氏	市内大社町15-15	町内申合規約の印	1	"	"	"	ノコギリ	1
9.9	杉山 義秀氏	市内御園73-7	竹行李	1					
	"	"	五ツ玉ソロバン	1					
	"	"	富山の薬箱	1					



▲炭アイロン



▲祝いビツ



# 収集資料報告 II

## ～ある農家の納屋から～

徳倉の農家からひとまとめの農具等を寄贈していただきました。(一覧表を参考)

農具の内容から、かつてこの農家が水田中心の農業を行ってきたことが判ります。稲作のための農具が大半を占めているからです。また、そうした農具の大きさ等からは、農家の耕作規模や暮らしぶりまでが推測できるものです。

農家にとっての農具は、単に道具にとどま

らず、財産でもありました。

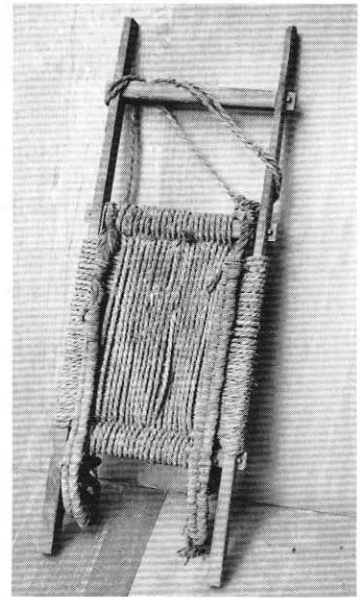
しかし、近年の農業機械の進歩は人間の労働力を減少させ、作業は短期に簡単に行うことを可能にしましたが、かつての農家の財産だった農具を、納屋のスペースを占有するだけの不用品としてしまいました。

農具の機械化、それにとまなう作業の合理化は歓迎すべき進歩ではありますが、私たちの祖先の汗と苦労が染み込んだ種々の農具と、そこに発見できる初期農業の知恵と工夫までが忘れられてしまうのは淋しいことです。

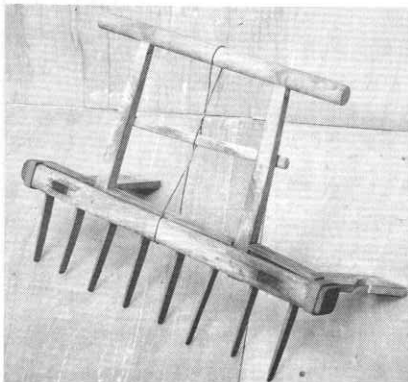
郷土館では、こうした古い道具を集めて、調査し、展示しています。

本報告では、このたび寄贈された徳倉の農家の農具の一部をご紹介します。

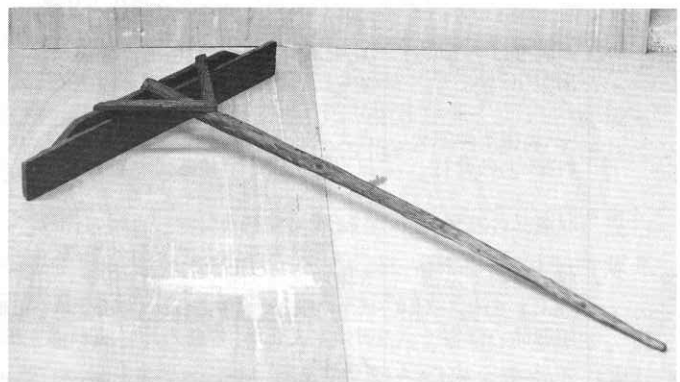
資料名	数	資料名	数	資料名	数
クラ	3	ジョウゴ	2	縄張り	2
杵	1	千石どおし	1	カキダシ具 (木研)?	1
ショイコ	1	扇風機	1		1
ツルハシ	1	唐竿	1		
ワラ切り機	1	木槌	1	計	39
(俵編み用)脚	1組	エブリ	1		
野菜束ね台	1	芋切り	2		
鋤簾	1	タコロガシ	2		
スキ	1	マンガ	1		
筋切り	1	シロカキマンガ	1		
田植え縄	2	引き網	1		
ワラスグリ	1	二人振り	1		
唐箕	1	ホウリマンガ	4		



▲ショイコ



▲マンガ



▲エブリ

# 平成4年度 三島市郷土館事業報告

常設展示の充実を図り、企画展を開催、市民各層を対象とした講座を開設しました。  
主なものは次の通りです。

区分	事業名	内容	実施日	入館者又は参加者	備考
常設展示	ふるさとの自然と民俗(2階)	三島暦、三四呂人形、農具、下駄作り道具、農家・商家の復元家屋など。旧石器時代から江戸時代までの三島の歴史を展示紹介。	年間		2・3階は常設展示場
	三島の歴史(3階)		年間		
企画展示	ふるさとの人物 幕末の名代官 江川太郎左衛門(担庵)展	韭山に生まれ、幕末の困難な時代の代官として多くの功績を残した江川太郎左衛門(担庵)の業績と書、絵画作品の展示紹介。	7月19日 ) 9月13日	13,937人	資料提供者 江川英晴氏 他
	古代瓦展	伊豆国分寺、三島古寺院を中心に駿・甲・相・武の古寺院の瓦を展示紹介。	11月1日～ 5年1月17日	16,956人	資料提供者 三嶋大社他
	祝いごとの民俗展	人の一生の祝いごと、農耕、ムラや家の祝いごとなど様々な「祝いごと」に用いられた道具や品物を展示紹介。	5年3月21日 ) 5月6日	12,567人	資料提供者 勝亦洋子氏 他
教育普及	縄文土器作り教室	縄文土器作りを通して、古代の生活に対する理解を深めた。	7月24、28日 8月26日	小学生(4～6年生) 29人	
	夏休み郷土学習会 「ふるさとの歴史を訪ねて」	夏休みを利用し、三島の歴史・地理について、向山小～玉沢の道を歩き学んだ。	8月5日	小学生(4～6年生) 21人	講師 鈴木辰己氏
	郷土館講座	「三島の古代史について」講演 「江川太郎左衛門と大塩平八郎の関係」講演 「県内の白鳳～奈良時代の寺院と瓦について」講演	5月20日	33人	齋藤 宏氏 仲田正之氏
			8月21日	32人	
			11月23日	25人	平野吾郎氏
	ふるさと講座	「新しい信長像」講演 「晩秋の天城路を往く」 「民間信仰の跡を訪ねて」 「故郷の味ー手打ちソバをつくる」	11月～12月 連続4回 受講・実演	市内在住の 女性 25人	講師 長谷川福太郎氏 望月一夫氏 野村凱一氏 勝又信子氏
(自主グループ活動) 初級・中級古文書講座 古文書読習会	会員による原文テキスト古文書の解読を学習(年12回) 古文書の解読学習会。「樋口本陣史料」等古文書の解読をした。	中級:毎月第3土曜 初級:毎月第3日曜 毎月第2、4土曜	中級会員 21人 初級会員 26人 会員 19人	講師 辻 真澄氏 講師 長谷川 福太郎氏	
収 集	郷土資料の収集	(1) 市民からの連絡を受けて収集する日常活動における収集 (2) 企画展などの機会に収集	平成4年4月～ 平成5年3月		民具、古文書、 その他資料
出版活動	「郷土館だより」の発行 絵葉書「浮世絵三島」 (シリーズ4)の作製	郷土館広報及び調査研究報告など。 東海道五十三次の浮世絵の中から三島宿と人物を描いたものを選んで作製。 (豊国、英泉)	年間3回発行 1 2月	(1,500部) (2,000部)	無料、8ページ 100円 (4枚セット)
	企画展にともなう出版	(1) 「祝いごとの民俗展」図録 (2) 「古代瓦展」パンフレット (3) 「江川太郎左衛門(担庵)展」パンフレット	平成5年3月 平成4年11月 平成4年7月	(500部) (2,000部) (2,000部)	1,100円 無料 無料
	「三島宿本陣家史料集(9)」の発行	古文書読習会会員の解読協力により、樋口本陣文書を解読して、史料集として刊行。	平成5年3月	(300部)	1冊 2,200円
そ の 他	収蔵品の整理	(1) 収集資料の整理、台帳の作成 (2) 写真資料、文献資料の整理	平成4年4月～ 平成5年3月		
	収蔵庫のくん蒸	3階収蔵庫のくん蒸消毒	7月8～10日 (臨時休館)		くん蒸専門業者委託
	広報みしま「郷土館シリーズ」掲載	郷土の歴史や民俗について紹介記事を掲載。	毎月1回(1日号)		
	館蔵品の修復	市指定文化財「月島の月」(油彩、栗原忠二作)の修復。	平成5年2月		専門業者委託
	新設展示	大型年表「三島の歴史」設置(2階踊り場)。	平成5年2月		

# 郷土館出版物のお知らせ

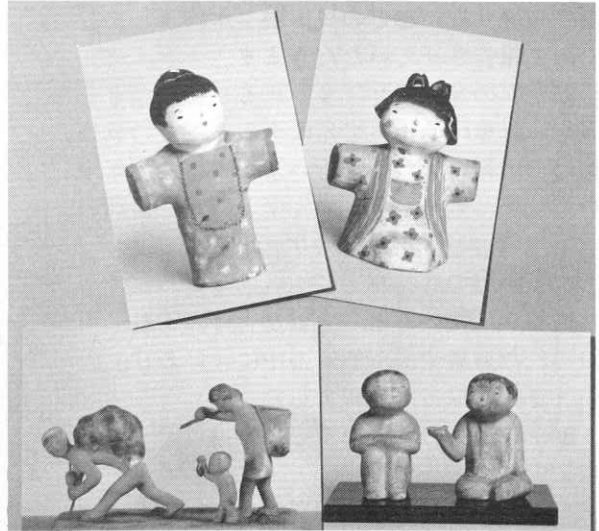
## (1)「三四呂人形絵はがき」作成

郷土館では、4回にわたりシリーズで発行してきました「浮世絵三島絵はがき」に続き、新しく「三四呂人形絵はがき」を作成しました。

絵はがきの内容を紹介しますと、人形作家野口三四郎の代表的作品である「水辺興談」、「磯」、「桃子」、「里子」の4枚で1セットにし、うす燈色の袋には野口三四郎のスケッチ画「四季」より、「春」と「夏」の風情を愛らしい男の子と女の子で表現した絵が描写されています。

この絵はがきは、郷土館窓口にて頒価100円で販売しております。

お買い求め下さるよう皆様の御来館をお待ちしております。



## (2)企画展「祝いごとの民俗展」図録 紹介

企画展「祝いごとの民俗展」（会期平成5年3月21日～5月6日）にあわせ作成した図録を頒価1,100円で販売しています。

表紙には、祝いごとに欠かせない水引をかけた紅色ののりで美しく飾り、めでたさを象徴しています。

内容は、大きく三つのテーマに分かれています。第一は、人の一生と祝いごと、第二は、農耕儀礼と祝いごと、第三は、建築・造船の祝いごとです。祝いごとの豆知識も記載されていて、豊富な写真とわかりやすい解説で、この図録さえあれば、人生儀礼や「いわう」ということの意義、祝いごとに用いられる道具や作法など「祝いごと」の民俗をあらためて考えていただくための良き参考資料になることでしょう。皆様がお買い求めいただきますようお願いしております。



## (3)「三島宿本陣家史料集(9)」の刊行

「三島宿本陣家史料集」の通巻第9号が刊行されました。

本書は、三島宿本陣樋口家所蔵の古文書「御往来控」(文政五年)を解説した史料で、本陣周辺の賑わいを想像させるに十分な、武家、公家、門跡たちの通行記録です。

原文書は、文政五年(1822)の春に整理されまとめられたものであります。記録の始まりは、享保八年卯年(1722)で、以下年ごとに「いろは」順で、往来者の氏名を記しています。それぞれの往来者については所属藩

(寺、社)通行月日、出没した人馬の数等が付されています。表題通りの内容の羅列が続く史料ですが、中には目を引く面白い記録も含まれており、読み進むうちに引き込まれていくことでしょう。

この「三島宿本陣家史料集(9)」は、三島市郷土館事務室受付にて、頒価2,200円で販売しています。

なお、遠方の方で購入ご希望の場合は、書籍代に送料260円を添えて現金書留でお申し込み下さい。

## ■企画展

## 「祝いごとの民俗」報告

平成5年3月21日から5月6日まで開催した企画展「祝いごとの民俗展」が終了しましたので報告させていただきます。

私たちの身の回りに多くある「祝いごと」。人生一誕生に始まって死に至るまでその成長のつどに祝いの行事を行います。また、年中行事では、生産・生業の安全と豊饒を祈願した「祝いごと」が毎年繰り返されます。

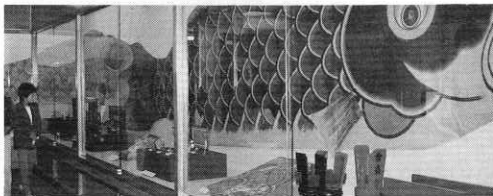
本企画展では、郷土で伝統的に行われてきた様々な「祝いごと」を取り上げ、それに用いられた道具や民俗儀式の中に「いわう」という意味を探ったものでした。

展示にご協力下さいました皆様に厚くお礼申し上げます。

## 企画展「祝いごとの民俗」入館者数

(会期 平成5年3月21日～5月6日)

月 (開館日数)	3月 (11日)	4月 (26日)	5月 (6日)	合計 (43日)
学生(小中高)	1,330	1,400	947	3,677
一般(個人)	1,895	3,940	2,265	8,100
団体(30人以上)	(3) 370	(11) 420	(0) 0	(14) 790
合計	3,595	5,760	3,212	12,567



◀ 展示風景

## 郷土館 人事異動のお知らせ

4月の人事異動により、職員の顔ぶれが変わりました。

新任館長 高本一三  
(選挙管理委員会より)

副主任 鈴木敏夫  
(都市整備課より)

転出

館長 山田美津子  
(図書館長へ)

主査 小林高彦  
(徴収課へ)

今後ともよろしく願います。

## 郷土館 行事予定

## ■企画展「竹と生活」～竹のある暮らし～

開催期間 11月14日～平成6年2月13日

内容 郷土を中心とした地域での竹の利用法や竹と人々の暮らしとの関連を考えます。世界の竹・日本の竹、竹と生活、竹と昔話、竹屋の生活、竹に関する知識など。(P3参照)

■企画展 <sup>イハタ</sup>「糸機と暮らし」

開催期間 平成6年2月～5月(予定)

内容 かつて盛んだった養蚕や、どの家庭でもやっていた手機など、地域の伝統的な衣生活をふり返ります。また、三島の紺屋とその下職、だれにも簡単にできる草木染めについても展示。

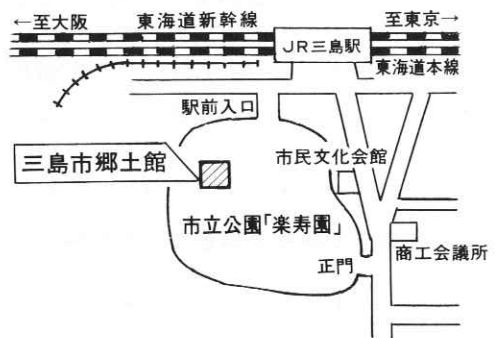
## 利用案内

休館日 毎週月曜(祝日の時は翌日)

12月27日～1月2日

開館時間 午前9時～午後4時30分

入場無料(但し、楽寿園入場の際、有料)



三島駅(南口)から徒歩5分。市立公園楽寿園内

## 郷土館だより No.46

平成5年11月15日発行

(年3回発行)

編集 三島市郷土館  
住所 〒411 三島市一番町19-3 楽寿園内  
TEL 0559-71-8228  
FAX 0559-81-3730  
発行 三島市教育委員会